

がん医療ネットワークナビゲーター制度について

地域が一体となった
がんの相談支援・情報提供体制のための
人材育成と体制の確立の必要性について

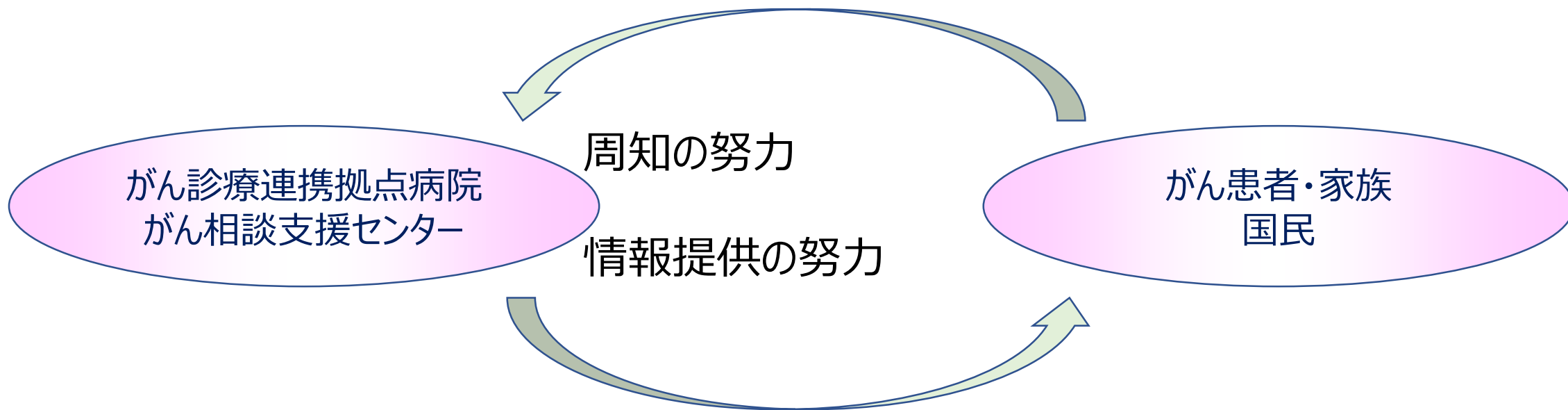
参考人

国立病院機構九州がんセンター

院長 藤 也寸志

がんの相談支援・情報提供に関する現状と課題

多くの国民、多くのがん患者・家族が、
がん相談支援センターにたどり着かない



がん相談支援センターが提供する情報が、
がん患者・家族、国民にたどり着かない

生活・療養環境による要望特性に応じたがん情報提供・相談支援体制の在り方：
 地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及（H29-がん対策-一般-004）
 研究代表者：藤 也寸志、西山正彦

地域の情報提供・相談支援体制の検証

（がん患者さんご家族向け支援のアンケート調査）（2017年）
 （がん患者さんご家族向け支援の聞き取り調査）（2019年）

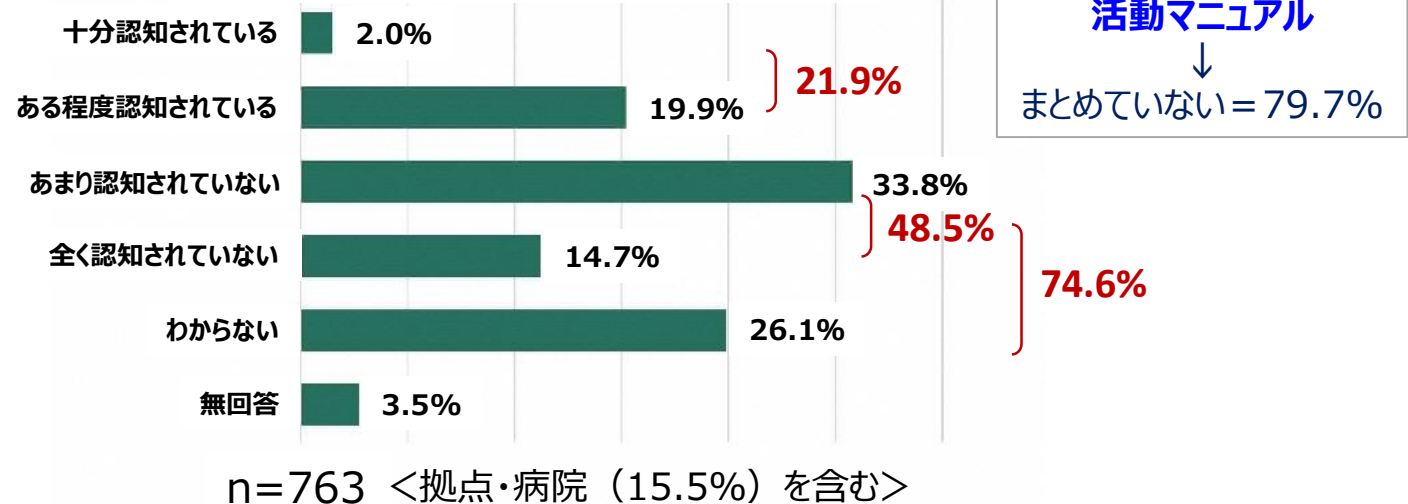
調査票依頼先：属性別（群馬・東京・神奈川・福岡・熊本・大分）

	アンケート調査			聞き取り調査		
	発送数	回収数	回収率	依頼数	参加数	実参加率
病院(がん拠点)	70	50	71.4	50	15	30.0
病院(一般)	137	68	49.6	68	6	8.8
診療所(在宅有)	346	111	32.1	111	9	8.1
診療所(在宅無)	27	27	100	27	2	7.4
地域包括支援センター	107	48	44.9	48	6	12.5
訪問看護事業所	236	87	36.8	87	8	9.2
訪問介護事業所	21	4	19.0	4	0	0
居宅介護支援事業所・ケアセンター	241	136	56.4	136	8	5.9
保険薬局	248	103	41.5	103	7	6.8
市区町村の窓口	102	37	36.3	37	1	2.7
保健所	43	29	67.4	29	4	13.8
公共図書館	43	27	62.8	27	1	3.7
患者会・患者支援団体	53	30	56.6	30	12	40.0
その他 連携診療所 緩和ケア施設 有料老人ホーム 特別養護老人ホーム グループホーム ケアハウス 小規模多機能施設 在宅療養支援病院 医師会など	330	6	1.8	6	0	0
計	2004	763	38.1	763	79	10.4

609施設

相談支援センターで使用中の「相談記入シート」の項目を中心として行ったアンケート調査の結果

相談支援と情報提供の活動について、
 利用者から認知されていますか？



がん診療連携拠点病院を中心とした医療施設とそれ以外の医療・介護関連施設等との連携の未整備や、
 国のがん施策が届かずに孤立して苦勞している地域の医療・介護領域の施設・従事者の姿が浮き彫りになった。

⇒ この領域には、がん診療連携拠点病院（+がん相談支援センター）に届かないがん患者や家族が多く存在する可能性が高い。

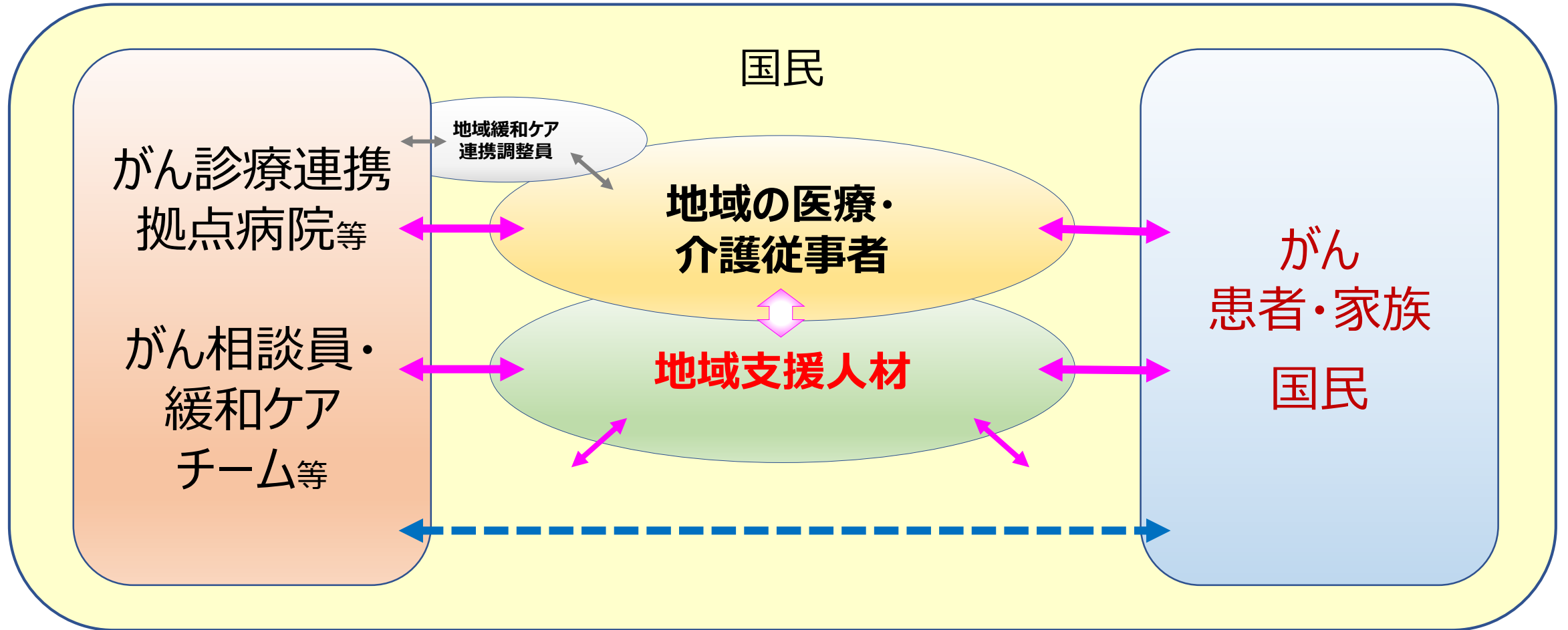
<地域の情報提供・相談支援体制の確立>と<相談支援活性化人材の育成> ～まとめと展望～

- がん診療連携拠点病院やそれと連携する病院群**以外**の医療・介護施設やその従事者への情報提供・相談支援の不足（情報が届かず孤立している）や円滑な連携の不足がある。
- これらの克服には、がん診療連携拠点病院の努力のみでは不十分であり、これを支える市井の人材の育成は、患者・家族のみならず、それらを地域で支える広範囲の医療・介護従事者への支援に不可欠な要素である。



がんの経過に応じて発生する多様なニーズに対して、様々な専門性を有する関係者が、地域の育成人材とともに、ニーズに応じた情報を整備し、支援体制を標準化し、教育研修機会を確保することによって、がん患者と家族が必要とする情報や支援によりつながりやすくなる可能性がある。

地域が一体となった がんの相談支援・情報提供体制のための人材育成と体制の確立



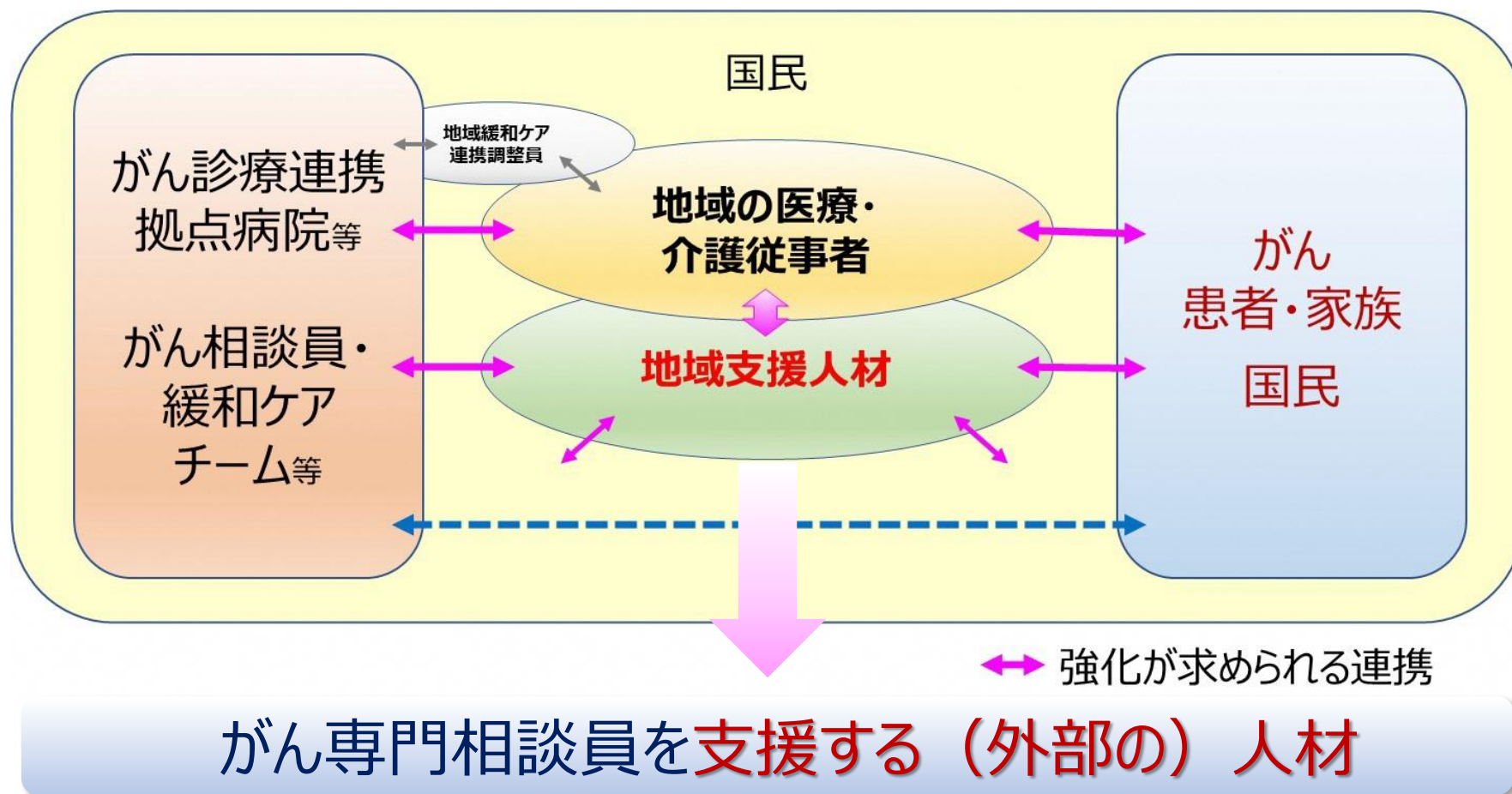
⇔ 強化が求められる連携

日本癌治療学会認定がんナビゲーター制度

Cancer Network Navigator

Cancer Network Senior Navigator

地域が一体となったがんの相談支援・情報提供体制のための人材育成と体制の確立



ナビゲーター・シニアナビゲーターの活動のイメージ

相談支援

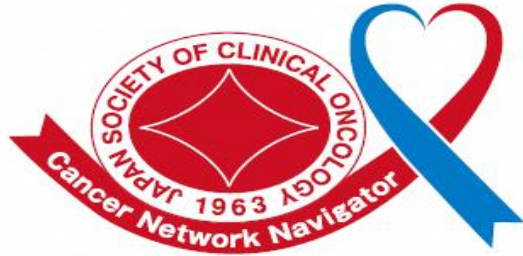
- 簡単な相談を受ける
- がん専門相談員との顔の見える連携（相談員につなぐ）

情報発信

- 拠点病院等から発信された情報を拡散する
（がん相談支援センターのポスターの掲示、がん情報サービスなどの周知活動を含む）
- 地域の医療・介護従事者や市民への啓発活動への参画
（がん相談支援センターによる図書館などでの講演会へのスタッフとしての参画など）

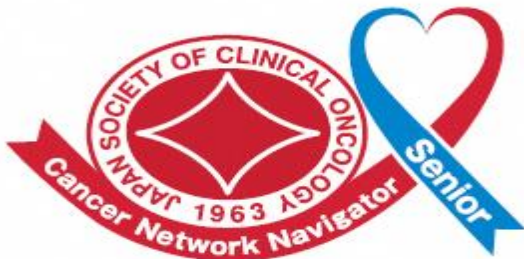
認定の流れ

ナビゲーター徽章



5年毎の更新

シニアナビゲーター徽章



5年毎の更新

e-LEARNING

視聴料 8,000円

ナビゲーター認定

認定料 2,000円

コミュニケーションスキルセミナー

受講料 5,000円

実地見学

シニアナビゲーター認定

認定料 10,000円

研修者自己負担
合計 25,000円

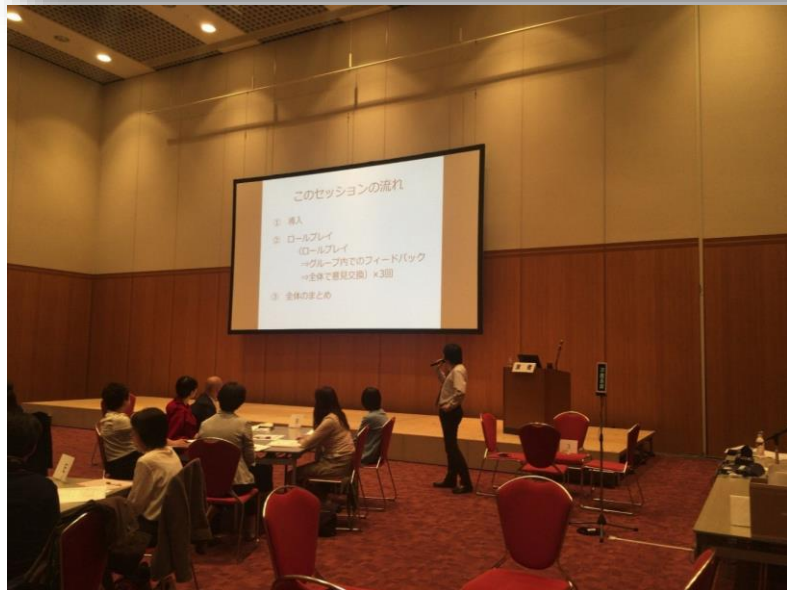
e-learning (60分講義 + 確認テスト) x 41講義

1	がん対策基本法	15	がんの発生と予防/化学予防	29	がん医療ネットワークナビゲーターの役割について
2	医療倫理に関わる規約・法律・指針/職業人としての模範	16	がん検診の基本的な考え方	30	がん相談支援において必要な知識とスキル
3	医療事故をめぐる法と倫理	17	臨床腫瘍学(総論)	31	がん情報の探し方・集め方
4	日本の医療保険制度も含めた経済的視点	18	肺がん 各論	32	がん診療のインフォームドコンセント
5	臨床研究と倫理	19	乳がん 各論	33	効果的なコミュニケーション
6	臨床第 I 相試験、第 II 相試験	20	胃がん 各論	34	がん医療におけるコミュニケーション
7	臨床第 III 相試験、メタ解析	21	大腸がん 各論	35	終末期をめぐる倫理的諸問題
8	心理社会的要因とがんの罹患/生存	22	肝がん 各論	36	患者教育
9	がんの経過における正常反応と精神症状	23	その他の臨床研究、臨床試験	37	がんと栄養学
10	精神腫瘍学における教育	24	チームワークとマネジメント	38	がんと看護
11	スピリチュアルペイン	25	チーム医療	39	がんとソーシャルワーカー
12	家族・遺族ケア	26	チーム医療の重要性と在り方	40	がんと心理支援 (カウンセリング)
13	支持療法	27	地域医療連携	41	がんとリハビリテーション
14	高齢者/認知症	28	在宅医療と地域連携 退院支援		

がん医療エキスパート育成事業運営会議より必要講義を抜粋

(癌学会・癌治療学会・緩和医療学会・放射線腫瘍学会・サイコオンコロジー学会・病理学会・国立がん研究センター・がん治療認定医機構)

コミュニケーションスキルセミナー



セミナーのスケジュール

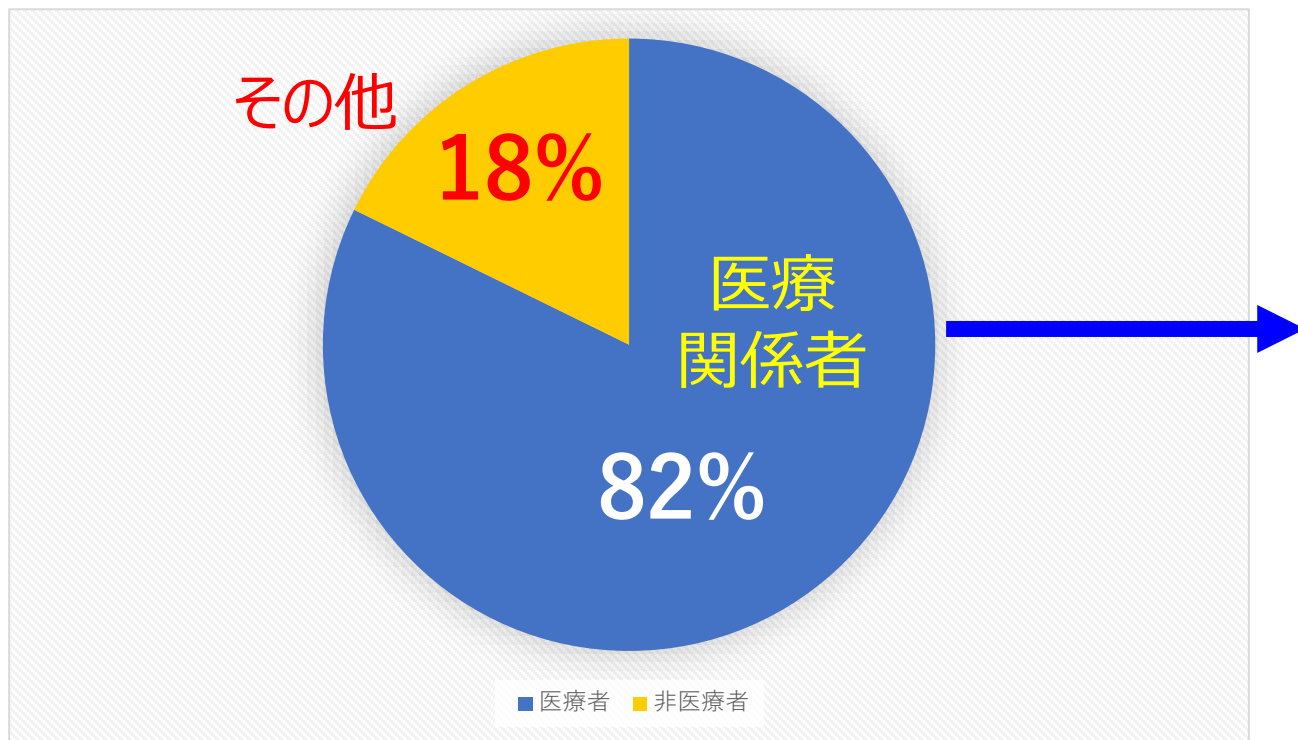
12:30~12:45 (15分)	開会のご挨拶 イントロダクション
12:45~13:00 (15分)	自己紹介 (ファシリテーターのみ)
13:00~13:10 (10分)	コミュニケーションのポイント
13:10~14:10 (60分)	面談相談模擬体験1 (ロールプレイ1-1~1-3)
14:10~14:20 (10分)	休憩
14:20~15:10 (50分)	相談場面の検討 (グループワーク)
15:10~15:20 (10分)	休憩
15:20~16:15 (55分)	面談相談模擬体験2 (ロールプレイ2-1~2-3)
16:15~16:30 (15分)	閉会 閉会のご挨拶 事後アンケート
16:30~17:00 (30分)	振り返り

実地見学の内容 (認定実地見学施設において実施)

- 1.医療相談の面談場面に同席 (必須) →
 - 2.緩和ケア外来同席 (必須)
 - 3.緩和ケアチーム回診随行 (必須)
 - 4.カンサーボード出席・見学 (必須)
 - 5.緩和病棟での症例検討会・カンファレンスへの参加
 - 6.外来診療の見学
 - 7.退院前カンファレンス同席
 - 8.治験管理室との連携
 - 9.がん地域連携クリティカルパス導入時や面談時等の同席
 - 10.症例検討会・カンファレンスなどへの参加
 - 11.患者教室・患者サロンなどへの参加
- ・最低10症例の相談を見学
(概要を所定の研修シートに記入)
 - ・最低2症例の詳細レポートを提出

見学受け入れ施設 (がん診療拠点病院) との連携

ナビゲーターの背景(職性)



がん相談員	20
医師・歯科医師	11
看護師	44
薬剤師	350
保健師	2
臨床検査技師	3
放射線技師	1
理学療法士	2
作業療法士	2
心理療法士	1
管理栄養士	4
社会福祉士	2
精神保健福祉士	1
医療者以外 (医療事務)	92
医療者以外 (その他)	17

ナビゲーターの活動と支援



一般社団法人日本癌治療学会
がんnavi通信

Vol. 6
2021夏



がんと闘うランナー！医療機関とがん患者をつなぐ架け橋に！

がん医療ネットワークシニアナビゲーター 生川 晴美

2018年にシニアナビゲーターに認定されました。その後三重県で支援の活動を広げたく、2019年三重県でがんピアサポーター養成研修に参加、三重県がん相談支援センターのピアサポーターとして登録を行いました。がん経験者として、シニアナビゲーターとして患者さんの不安に寄り添うことができると願っているのですが、これからの三重県内でのピアサポートの形が少しずつ出来上がらうかという折コロナ禍で活動が思うようにならなくなっています。職場（私立医科大付属の病院）のルールで対面の会議の人数制限などにより、所属する患者会への参加も難しい状態でした。一方、オンラインによる会議や研修会が増え、以前では遠方で出向くことの難しかった東京や九州のがん支援のイベントや講演会に参加することができています。以前より多くの学びの機会が得られています。支援活動もオンラインサロンなどを三重でも実現してきていますので活かしていきたいと思っています。



**がんだって働ける！楽しめる！
自身ががんになってもランニングを
続けることで、伝えたい思いとは。**

私はランニングや登山、川下りなど野外で過ごすことが趣味です。仲間と大会やイベント、SNS上でつながることが楽しく、実際の野外活動と同じくらい楽しみの一つになっています。そういった場ががんになったことやがん患者さんの支援をしたいから学んでいることを話す機会もあり、私がナビゲーターやサポーターの活動をしていることが仲間に分かっていくようになりました。その中でがんになったランナーや、家族や友人が罹患した方からの相談をされることも増えてきています。健康的なグループですがやはりがんは他人事ではありません。中には直接お会いしたことがないが噂で聞いたので相談したいという方も数名ありました。がんになったからもう走らないほうがいいのかという趣味に関するものもありますが、受けている治療に関する疑問や不安も寄せられます。私は彼らと同じ目線で気持ちを理解しようとするナビゲーターとして力になれるとがんナビで学べたことをうれしく思っています。



がんナビ宣言

- ・ より多くの人に「がんナビ」を知ってもらおう
- ・ それぞれの立場で患者さんと家族のために「がんナビ」を活かそう
- ・ ナビ同士のつながりをより強く、可能性を広げよう



2021年10月22日 第50回日本癌治療学会学術集会 横浜

がん医療ネットワークナビゲーター交流会・イベント 掲載ページ

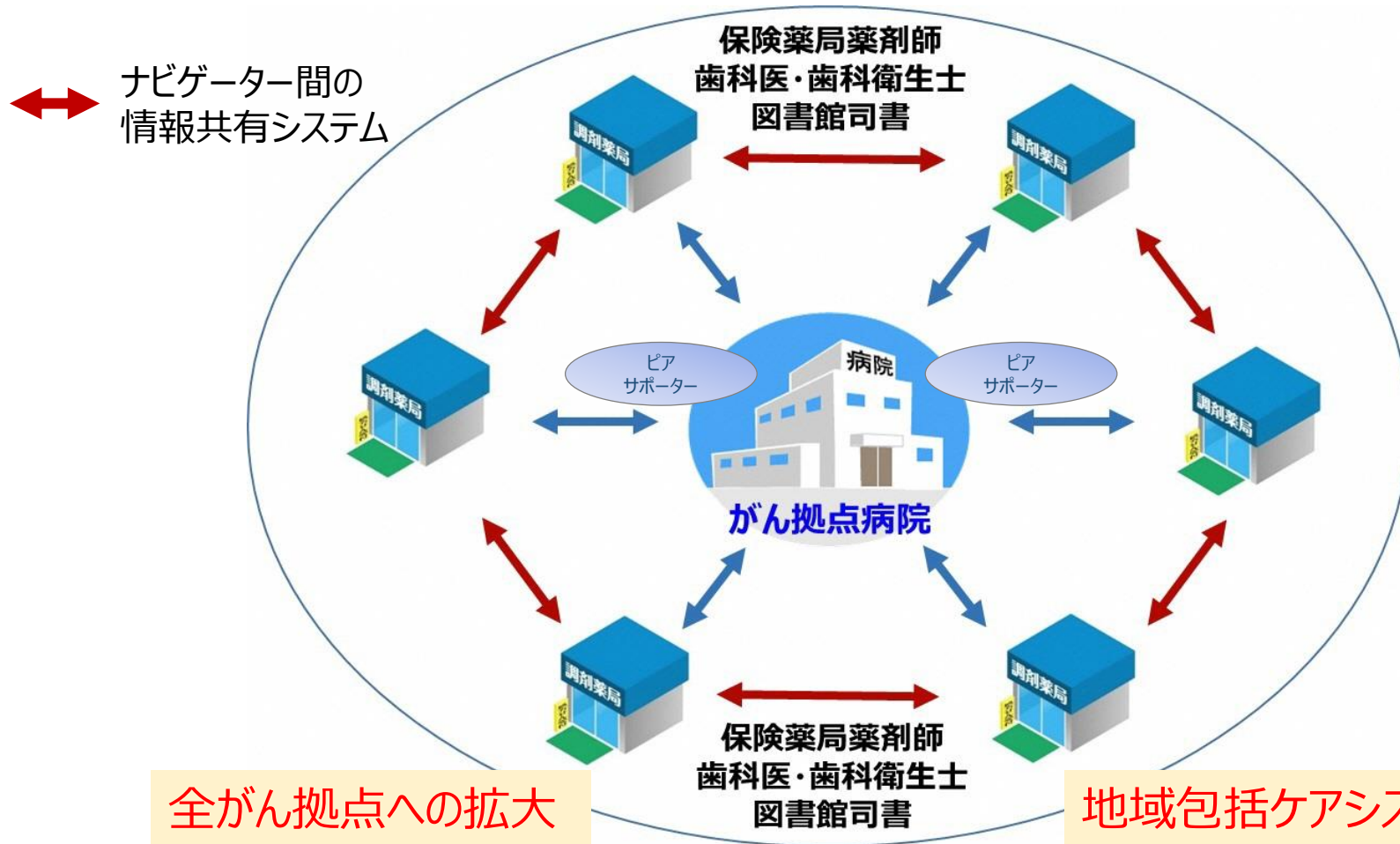
がん医療ネットワークナビゲーター・シニアナビゲーター・制度委員会の委員の皆さまを含めて、ナビまるに参加している方の気軽な交流会です。ぜひ、最近の新型コロナウイルス感染症のもとでの活動、困っていること、聞きたいことなど、ぜひお話しください。途中からの参加、一部だけの参加も可能です。当日参加も可能ですが、人数の大まかな把握のため、事前のご登録をお勧めいたします。交流会やイベントは、オンライン会議システム（Zoom）を用いて開催しています。申し込みなどの詳細は、イベントをクリックして「申し込みページ」をご覧ください。

交流会・イベント掲載ページへの掲載希望は、ナビまる（がん医療ネットワークナビゲーター）メーリングリストなどで案内しています。制度検討ワーキンググループ渡邊あてにお知らせください。

がん医療ネットワークナビゲーター制度に関するお問い合わせは、このページ末尾の「一般社団法人日本癌治療学会 認定がんナビゲーター制度」をご参照ください。

がん医療ネットワークナビゲーター 制度検討ワーキンググループ
広報ワーキンググループ

福岡県におけるナビゲーターネットワークのイメージ例



ナビゲーター間の
情報共有システム

全がん拠点への拡大

がん相談員
病院薬剤師
医師

地域包括ケアシステムへの拡大

介護福祉士
ケアマネジャー
訪問看護師・介護士

第2回 がん医療
ネットワークナビゲーター
交流会

日時
2022年1月24日(月) 19:00~20:00
オンライン (Zoom) 開催 定員 30名

内容
シニアナビゲーター
司会 坂口敦彦 さん (そうごう薬局 天神中央店)

① がん相談支援センターへつないだ事例
事例提供: シニアナビゲーター
下川友香理 さん (そうごう薬局 天神中央店)

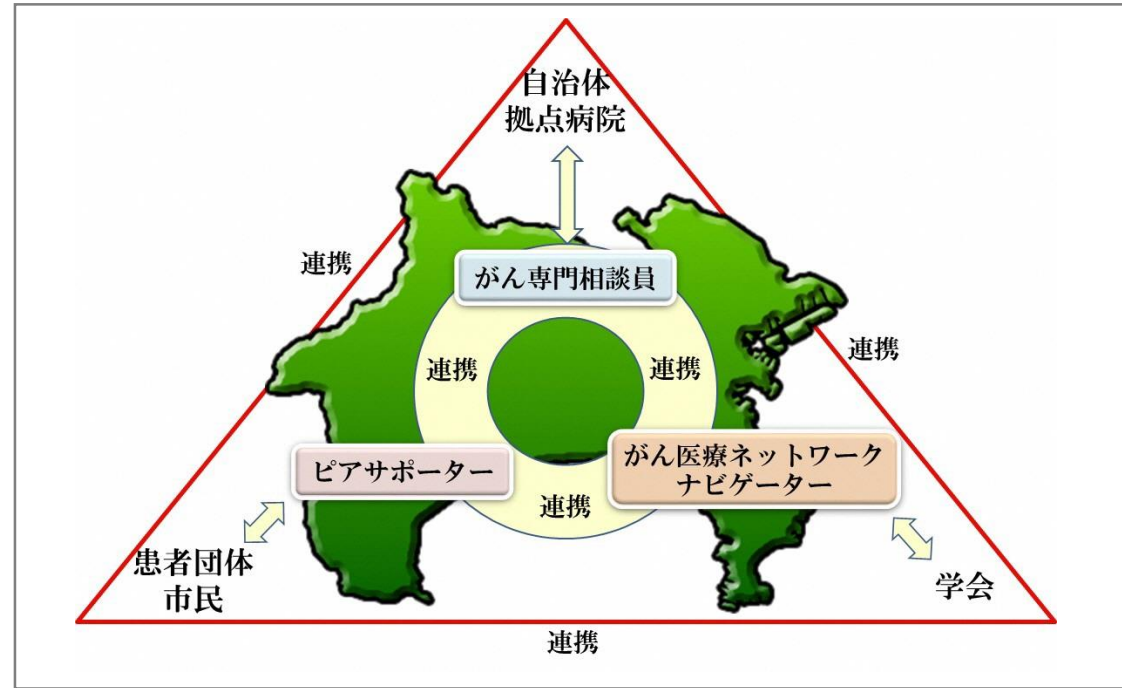
② グループワーク
① 最近相談されたこと・つなげるときに困ったこと
② 相談されやすいように工夫していること

【注意事項】
・グループワークがあるため、お1人様1台のデバイス (マイク、カメラ付き) での参加が必要となります。

左のQRコードを読み込み、
フォームに沿ってお申し込み
ください。

申し込み締め切り: **1月17日(月)**
問い合わせ先: gannabi2021@gmail.com

神奈川県におけるナビゲーターネットワークのイメージ例



神奈川モデル：がん患者支援者協働モデル

1. 自治体（行政）が地域におけるがん患者支援者のリソースを把握する。
2. 自治体（行政）がそれぞれの役割を認識し、活動の場を提供する。
3. 自治体（行政）がそれぞれの支援者の質を把握する。
 - ① 具体的には教育プログラムを把握する
 - ② 資格認定に関与する
 - ③ 活動内容の把握や評価に関与する

熊本県におけるナビゲーターネットワークのイメージ例

がん専門相談員

- がん診療連携拠点病院 地域統括相談支援センター等
- 国立がん研究センター認定がん専門相談員
- 科学的な根拠や実践に基づく信頼できる情報を提供することによって、相談者がその人らしい生活や治療選択ができるように支援する

情報共有の場

相談支援・情報連携部会

ナビゲーター

- 市井（例：保険調剤薬局 等）
- がん医療ネットワークナビゲーター育成プログラム
- がん医療の適切・的確な医療情報をがん患者さんに提供、もしくはそれらへのアクセスを示す
- がんの理解と情報を提供するナビ、更にがん拠点病院の「がん相談支援センター」と連携し、病院外で補完するシニアナビとの2階構造

ピア・サポーター

- がん診療連携拠点病院 がんサロン 等
- ピアサポーター養成研修会
- がんサポートグループ企画・運営のための研修会
- ご自身もしくは家族としてがんを体験し、ある同じような病気を患う患者、家族に対するサポートを行う
- ピアサポーターは利用者と体験を共有し、ともに考えることが期待される

最小単位（拠点病院）との連携の確立が大前提

- がん専門相談員とナビとの顔の見える関係の構築
- 情報共有と問題解決
- 拠点病院での勉強会に参加
- 患者カンファレンスの開催
- 拠点病院以外の相談員との連携 など

今後の発展のために求められる将来の課題について

ナビゲーターの所属とコーディネート体制は？

- 各都道府県のがん対策担当課
 - 各都道府県のがん診療連携協議会
 - 都道府県がん診療連携拠点病院
 - 各地域がん診療連携拠点病院
- } 施設としての認識が必要
(がん相談支援センターだけの問題ではない)

ナビゲーターの質の担保は？

- 5年毎の更新制度（学習継続のシステム構築が必要）
- がん専門相談員との交流を通じた質の向上
- ナビゲーターによる自主的な勉強会のサポート

～ まとめ と 今後、求められること ～

- がん診療連携拠点病院等やそれと連携する病院群以外の医療・介護施設やその従事者へのがんの情報提供・相談支援や円滑な連携の不足がある。
- この領域には、がん相談支援センター（正しい情報提供や相談支援）に届かないがん患者や家族が多く存在する可能性が高い。
- これらの問題を克服するためには、がん診療連携拠点病院等の努力のみでは不十分であり、がん専門相談員をサポートする市井の人材を育成することは、患者・家族へのがんの情報提供・相談支援の促進には不可欠である。



がん診療連携拠点病院等の認識を高め、地域の人材育成システムの構築への強い意識付けと行政等による協力・支援が必要である。